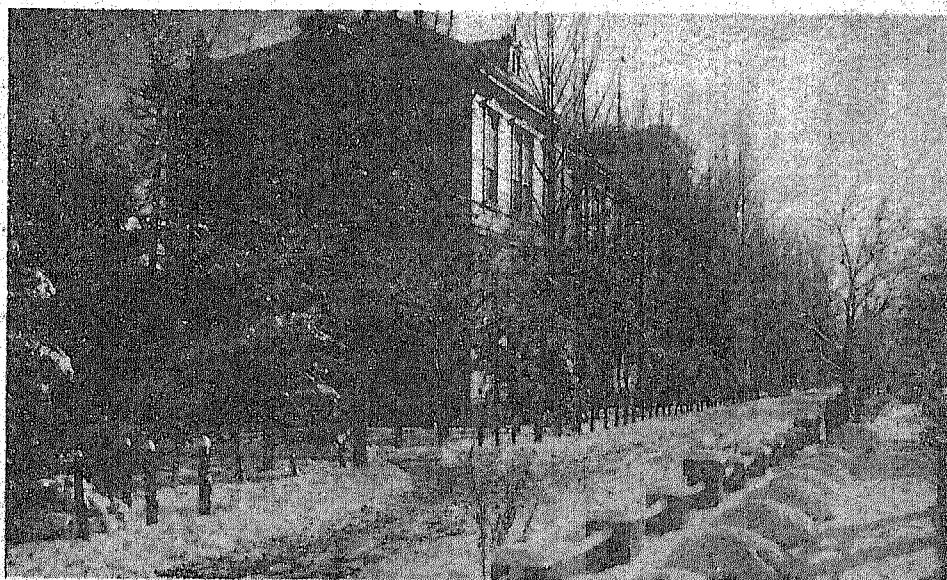


東千曲會報

昭和十七年一月二十五日

第三十號

社団法人千曲會



初雪の母校

目次

- △初雪の母校……………(一)
- △重大時局を前に昭和十七年
を迎え我々絲業を思ふ……井上柳梧(二)
- △決戦態勢に下ける我々絲業
の任務と將來への展望……蒲生俊興(四)
- △第二十九回卒業證書授與式(五)
- △母校便り……………(六)
- 教練査閲……………
- 甘茶美術展覽會……………
- 映畫班記事……………
- 修道班記事……………
- 職員常會……………
- △本會記事……………(六)
- 本會日誌……………
- 千曲會新役員歡迎會……………
- 北信支會役員改選……………
- △遠藤保太郎先生退官……………(七)
- △記念品贈呈資金募集……………
- △就後資金應募者……………(七)
- △會費領收……………(八)
- △敘任辭令……………(八)
- △社団法人千曲會第二回總會……………(九)
- 總會次第……………
- 總會出席者氏名……………
- 議事……………
- △昭和十五年度千曲會
收支決算表……………(九)
- △昭和十七年度千曲會
收支決算表……………(一)
- △新制會費納入回数と
一時金の關係表……………(一)
- △基本財産表……………(一)
- △支會通信……………(一)
- 栃木支會便り……………(一)
- △計報……………(一)
- 死亡者氏名……………
- 弔慰金報告……………
- 遺族よりの禮狀……………
- 正木章三君の
想ひ出……………由井千幸
- △原稿募集……………(一)
- △千曲會指定旅館案内……………(一)

謹賀新年

昭和十七年元旦

上田蠶絲專門學校

井上柳梧
職員一同

謹賀新年

昭和十七年元旦

在校千曲會員一同

重大時局を前に昭和十七年を 迎へて我蠶絲業を思ふ

井上柳梧

昭和十六年十二月八日午前十一時四十五分
米英に對する宣戰布告に當りての詔書、畏くも煥發せられ國民に對し米英に對する開戰の理由を御示し下され國民の進むべき道を御諭し下されたのである。吾々臣民は誠に恐惶感激に堪えぬ次第である。吾々は各其職場に於て最善の努力をして一億一心總力を擧げて此未曾有の國難を突破して、大御心を安んずるべきであらう。

暴戻凶暴なき米英は亞細亞を自らの殖民地に考へ事々に我が國策たる大亞細亞共榮圈の建設の行動に反對し、剩へ資産凍結令を發して我國を經濟的に封鎖し所謂ABC包圍陣を強化して軍事的に我に逼まらんとしたのである。

我國は世界平和を願ふ爲めに忍ぶべからざるを忍び、耐ふべからざるに耐え隱忍自重して今日に到つたのである。然しながら我國の存立を危殆に陥らしむる如き徒等の行爲に對しては黙する事能はず、我國は自存自衛を全くする爲めに斷乎として起つたのである。

宣戰の御詔書を拜したる上は吾々は敵國を撃滅して征戰の目的を達成せざれば止まないものである。

今回の戰爭は世界最大の海軍國を相手とするのであつて我國運を賭しての戰である。我々は必勝の信念を以て全力を擧げて國難を打破すべく突進しなければならぬ。幸なる哉、開戰第一日よりハワイ、シンガポール、ヒリツピン、香港、グロム等に於ての大勝の吉報頻りに來る。吾等實に雀躍歡喜に堪えないのである。是れにより我海軍の世界無敵なる事が世界各國人に深く知られたのであつた。

米英の強大さを以てしては假へ大敗を重ねても尙ほ捲土襲來する事期すべきである。從て

戰は長期に亘る事を覺悟しなければならぬ。吾々は常に緊張したる心構を以て聖戰の目的達成せらるる迄は萬難を排して邁進しなければならぬのである。

日支事變勃發して以來五ヶ年、皇軍は御機威の下赫々たる武功を宣揚し向ふ所連戰連勝して今や四百餘州を席卷して餘す所ないのである。北支より中支へ、中支より更に南支へと堂々武歩を進めた皇軍の威力により將政權は邊疆に壓迫せられ今日僅かに重慶に餘喘を保つのみ。之れに對して汪精衛氏指導の下に首都南京に遷都した新國民政府は漸次其基礎を鞏固となり、新東亞建設の一翼として我が國策に協力しつゝあり。更に皇軍は我が國の大精神を顯現し八紘爲宇の大使命を達成せんが爲めに、遠く泰國、馬來半島に進軍しつゝあり。尙ほ太平洋の孤島ハワイにも進軍しつゝあり。實に北は北滿より南太平洋を呑まんとする態勢は我國有史以來未曾有の大偉観である。皇國の進展實に偉大なりと謂ふべきである。吾々一億一心となり萬難を排して此難關を突破すれば我國の前途は洋々たるべきものがあると思はる。

翻つて我蠶絲業を見るに米國の經濟壓迫により生絲は米國依存を脱却して、内需に向けるに到つたのである。米國は是れによりて日本が經濟上非常なる窮迫に陥ると思つたかも知れないのであるが、幸ひ我國に於ては已に以前より是れに對する對策は出來て居つたのである。生絲の對米輸出杜絶前の數量は三十萬俵であつた、然し是れは數量的には別段問題では無いのであつて現在に於ては國內消費數量の方が一層大量を必要とする状態になつて居るのである。目下の我國蠶絲界に於ては羊毛の輸入、工業鹽等の資材輸入の困難な

る爲めに人造纖維の生産減少し國內纖維資源として蠶絲の地位は益々重きを加へつゝあるのである。

此關係より我蠶絲業の實體は何等微動だにしないのである。價格の點に於ても蠶絲統制法の實施によりて統制會社が生産費を基準とせる一定の價格にて蠶、生絲を買ひ入れて保護されて居り配給統制機構も整備せられ消費部面の融通性も確立されて居るので蠶絲業は以前に比して全く安定せるものとなつたのである。我蠶絲業は過去十數年に亘る研究によつて新しき用途に向ひて其面目を一新したものである。吾々は先づ此方面に向ひて顧みることとする。

先づ生絲の國內用として進むべき新しき方面は羊毛に代はりて服地としての進出である。是れは已に各方面に於て多數の研究、試験が重ねられて最早實用方面に一步踏み出して居るのである。原料纖維を得る法に一粒繰法及開繭法がある尙ほ平面繭による法も是れに加へられるのである。

一粒繰法は尙ほ研究時代にあつて各一得失あつて何れの法が最良であるか決定は出來ないものであるが、何れ其中には最も實用的ものが出來ると考へらるゝのである。開繭法にも切斷して開繭する法と煮繭機の様な裝置を使用し開繭劑を加へて開繭する法と針を植えたる廻轉せる圓筒を備へたる開繭機による法とある。平面繭に於ても各種の形式がある。是れも今日尙ほ試験時代にあるのであつて蠶が吐絲を平面上に於て完全にする爲めには品種改良によりて是れに適應する品種の選出が必要と考へらるゝのである。此法は生絲を得る法としては便利であり尙ほ平面繭としての他の用途もあるのである。一粒繰法と開繭法とによりて何れが有利であるかに就きて愛知縣で行はれた試験によれば一粒繰の方が價格が安く開繭法では中間の損失が多く從て歩留が悪く爲めに價格が高くなると謂ふ結果であ

る。例へば其製品に就きて比較して見ると同
じ規格のものを造るのに一メートルに就きて
一圓から一圓五十錢位開差の方が高くなる
と謂ふ事である。製品品質に就きては從來
は開差法によるものはネツプ多し不長で
あるとされて居りしが法式の如何によりては
可成の優良品も得られて居る。絹は強力が著
しく勝つて居る爲めに是れを使用する時は堅
牢度が増加するのである。即ちセリシヤン定着
染料と羊毛との割合を色々變へて十番手の紡
毛絲を作つて絲の強力及之で織つた服地の強
力を比較して見ると次の表の通りである。

| 混紡の割合 | | 強 力 | |
|-------|----|--------------|----------|
| 絹 | 羊毛 | 一〇番手 糸一〇本 | 混紡物 糸 |
| 100 | 0 | 五、四一 | 二五、〇 |
| 90 | 10 | 四、九六 | 二三、〇 |
| 80 | 20 | 四、七九 | 二二、五 |
| 70 | 30 | 四、四二 | 二一、〇 |
| 60 | 40 | 三、九〇 | 一五、六 |
| 50 | 50 | 三、七〇 | 一四、八 |
| 40 | 60 | 二、四九 | 一三、四 |

斯の如く絹は補強としても重要な役目を
爲すものである。

尙ほ毛の性質を得せしむる爲めにはセリシ
ン定着が必要である。定着法としてはホルマ
リン法とクロム法とが今日實地に行はれて居
るがホルマリン法は其數一に達し絹服地を
定着を行ふ工場は其數一に達し絹服地を
製造する工場は六四に達して居るが、尙ほ
此外に多くの紡績會社が絹毛絲の製造に當
つて居る。此の如き情勢にあるを以て絹の此方
面の需要は益々増加しつゝあるのである。
此外に主要なる新しき絹の用途を擧げて見
れば次の様である。

絲類としては特太絲、無抱合絲、絹吊絲、人
造テグス等がある。特太絲の製造には特種
機械も考案せられ以前は偏平なりしものが斷
面圓形に近い絲が得られ又絲質粗硬なりし
ものがレシヤン溶液を使用する事によつて柔
性を附與する事が出来得る様になつたのであ
る。無抱合絲は直接服地に使用すれば特種
風味ある織物が得られ又是れより容易に短織
絹が得らるゝのである。

絹吊絲は直に服地に使用せられ是れによりて
優良なる服地が得られ又毛絲の如き太い絹絲
も容易に造り得らるゝものである。此絲は特
種繰絲機械による爲めに其外觀は著しく毛絲
に似て居るのである。

人造テグスは生絲を數十本引揃へ之に撚を施
したものを五〇%のゼラチン液中にて加熱し
てゼラチンを絲縷の間隙に充分浸潤せしめ後
過剰のゼラチンを去り、更にホルマリン液に
てゼラチンを凝固させて不溶性としたもので
釣絲又は豚毛、馬毛等に代用せらるゝのであ
つて是等獸毛不足の今日其用途も多いのであ
る。

次に絹網がある從來使用されたる絹絲網と比
較すると海水中にて耐久性が大であり漁獲率
は高く重量は少く水切れ良く取扱が便利であ
る。尙ほ絹絲は絹絲に比して海水中に入りた
る時其太さの増加率は少く強力の減退も亦少
いのである。かかる特徴を有する爲め絹の此
方面の需要も益々増加するものと考へらるゝ
のである。

絹皮革に就いて見れば、絹は其強力の大であ
る所から是れを以て皮革を造る時は強くして
輕い製品が得らるゝ爲めに特種の用途がある
製造法も益々改良が加へられ品質も向上しつ
ゝあるのである。絹皮革を製造しつゝある所
は三十三個所もある。

が増加するのである。農林省蠶絲試驗場の實
驗によれば對照區は八頭中一頭の親が双生兒
を生みたるに對し蠶沙區の方は八頭中六頭の
親が双生兒を生んだのである。尙ほ絹羊一頭
の飼育には一ヶ年蠶沙五五〇匹を要すると謂
ふから我國の蠶沙全部を絹羊飼育に向ける事
が出来るとすれば三〇〇萬頭の絹羊を飼育し
得る事となる。今假りに三分の一とするも一
〇〇萬頭を飼育し得る事となるから今日の飼
料不足の状態に於ては大なる資源と謂はねば
ならぬのである。絹羊一頭の一ヶ年の厩肥生
産量は一五〇〇匹であつて、其厩肥含有量を
〇、六%とすれば三〇〇萬頭分の厩肥は二七
〇、五五匹であるから全國五〇萬町歩の桑園
の所要厩肥の二四%を絹羊厩肥を以て支辨す
る事が出来得ると謂ふ事になる。是等も亦大
に考慮すべき問題と思はれるのである。

蠶沙の約半量を占むる蠶糞は是れ又全國的に
考ふれば相當の量に達するものである。蠶糞
の利用に就きては活性炭素の製造がある。是
れは蠶糞の構造上非常に優良なる製品が得ら
るゝのである活性炭素は脱色用、醫藥用、瓦
斯吸收用、觸媒用、瓦斯マスク製造用として
其用途の廣いものである。尙ほ營糞前の赤糞
はヒスチジンの原料として役立つ事が出来得
るのである。ヒスチジンは胃潰瘍の特効藥と
して貴重なるものである。

蠶は從來製油及魚鰯の餌料、肥料として利用
されて來たのであるが、最近農林省蠶絲試驗場
小柳技師によりてビタミンB₂の含量が他に無
き程多くビタミンB₂の原料として非常に貴重
なるものである事が發見せられ蠶の價值が頗
に高まつたのである。ビタミンB₂は生長促進
營養を改善するビタミンにして營養上非常に
重要なものである。從來取は豚肝臓及酵母中
に多いと謂ふ事が知られて居つたのである。
今等は等のものゝ中に含有せらるゝビタミンB₂
の量を比較して見ると一匹中豚肝臓中には二

〇、四匹乾燥酵母中には二、三匹であるが乾
燥蛹中には實に一八五、〇匹で約九倍に當
つて居るビタミンB₂の純粋なる製品は非常に高
價であつて獨逸メルク製は一五、一三二圓で
ある。此の如く貴重なる資料を多量有する點
より蠶が絹より高價となる事もあり得ない事
は無いと思はれるのである。

蠶絲業は今や我國に取りては實に重要な産
業となつたのである。此の如く一つの産業は
是れに従事する人の献身的努力と研究とに
よりて興隆し盛大となるものである。是れに
反して産業人が努力もせず研究も怠り居れば
有望なる産業も自ら衰退するものである。

今や我國は南進又南進大東亞共榮圈建設の爲
めに一億一心となつて邁進しつゝあり、由來
亞細亞は絹絲の産地として世界に冠する所
である。我國は家蠶の外に柞蠶、天蠶、栗虫
ヒマ蠶及楓蠶あり滿洲國に柞蠶あり、中華民
國に家蠶、柞蠶、楓蠶あり。印度、ビルマに
は家蠶、印度柞蠶、ムガリ、エリ等多數の
野蠶が生存するのである。是等多數の絹絲類
及其副産物を利用して大東亞共榮圈内の
民族は勿論其他の世界人類の福利を計るは實
に吾々に課せられたる任務と謂はなければな
らぬ。吾々は是れを思ふ時我蠶絲關係者の前
途は實に洋々たる。同時に其責務も重且つ大
なりと考へざるを得ないのである。

大東亞共榮圈内の諸國に於ては絹以外に他の
纖維原料も多いのである即ち我國に麻及亞麻
滿洲國及北支に於ける亞麻及綿、蒙疆の羊毛
其他の毛類、比島のマニラ麻、印度及ビルマ
地方の綿及黃麻、南洋諸島のサイカサル麻
等算へれば其數及量は莫大なりと謂ふべき
である。吾々は絹と共に是等各種纖維の利
用をも考へなければならぬ。

茲に大戰の中に最も意義深き昭和十七年を迎
ふるに當り我蠶絲業の將來を考へ吾々の責務
の重大なるを思ひ諸君と共に協力一致し我國
の爲め奮然として努力邁進せんとする決意を
新にするものである。

決戦態勢下に於ける

我が蠶絲業の任務と將來への展望

蒲生俊興

久しきに亘る敵性國家の他くなき暴戾に對する我國の隱忍自重も終に破れて、愈々來る可き段階に突入するに至つた。夙くも各重要地點に於て赫々たる戰果を收め、萬國人を只啞然たらしめ我が國威を世界の隅々迄轟ろかすを得たのは寔に御稜威の下一億國民の團結と無敵海陸空軍の電撃作戰に因る決死的奮闘の賜物であり、我等の感謝感激に堪へざる所である。

顧るに過去數十年間我が蠶絲業の唯一顧客たりし米國も、英帝國の東洋退散を奇貨とし極東制覇の夢想に驅られ、全く無謀なる對日政策に禍ひせられ、數十年來の親交を反古にし、一舉にして日獨伊の挾撃を受けねばならぬとは何たる頑迷さよ。

されば吾が蠶絲業はその黄金時代に於て最終生産物たる生絲の八五%をアメリカに提供し、常に彼等の鼻息を窺ひつゝ年々五、六億圓の外貨獲得の重任を果して來たのであるが今次事變の推移に隨つて、蠶絲政策の全面的轉換が要請せられ、蠶絲生産物の新規用途の開拓と國內需要の増進とに依て、輒近に於ける纖維資源の不足を補ふ一方、桑園の一部を食糧政策のために犠牲にせねばならぬことゝなつたのである。

されば最近に於ける蠶絲業の情勢から世上或は本邦蠶絲業の前途を憂慮し、専ら滅亡に瀕するものゝ如く悲觀視する者もないではないが、抑も、本邦蠶絲業の副産物の性格から考察するも、亦纖維不足の應急對策上からしても將た農村振興と國防強兵の立場から觀ても凡そ養蠶業位農家の現金収入を多からしめるものは見出し得ないのである。然れども現今は主として物資増産を要する時代であるから反當の收穫を金額を以て比較するは當らないかも知れぬ。然らばいま桑園一反歩からの纖維資源の生産量を概算して見るに、先づ絹織維凡そ三貫匁の外、桑條より皮部凡そ三十貫(之より桑紙、桑絲、胎脂綿等約五貫匁餘が得られる)と木質部百四、五十貫(之から人造絹絲用パルプが五百ポンド餘が取れる)尙更に桑園一反歩からの蠶沙で飼養した繭半から羊毛一貫五百匁を獲たとしたら、單位面積からの纖維資源の生産に關する限り、到底蠶絲業の右に出づるものは見當らないのである。

從て蠶絲業は副産物利用の範圍を擴めれば反當りの生産價額から見ても、生産物資の數量からしても、或は勞力の分配より觀るも、我國農業の如き小規模經營に對する副業として最も理想的なる生産業たるは誰しも認むる所である。

只今後事變が長期に亘るに從て、愈々食糧増産の必要度を増す場合は更に桑園減反の要もあるべく、かゝる場合は與へられた單位面積の桑園から極力養蠶能率を増進せしめる如く、凡有る科學技術の粹を盡さねばならぬことは申す迄もない。

尙之に加へて蠶蛹、蠶沙等の新規用途の實際化に應じて今後に於ける蠶絲業の資源増産的價値は愈々加はり、時局遂行上蠶絲業の任務は直接又間接に重要な役割を演ずべきは首肯せらるゝ所である。

然れども、今後に於ける蠶絲業の運命を支配すべき重大要綱は(一)蠶絲類の内需増進に伴ふ生産費の低減と(二)蠶桑副産物の遺利開發による福利の増進である。即ち今後に於ける蠶絲業の進展は只管蠶絲科學の研鑽と之等最高技術の一般普遍化に係るものと言はざるを得ない。

況んや幸にして大東亞の新秩序が建設せられたる曉に於て、母國の食糧は全く安全に確保せられ、廣漠たる大共榮園内に於ける纖維の需要が愈々増大する場合、本邦及び大陸に於る蠶絲業の前途が如何に有望なるべきかは想像に餘りある所である。殊に從前の如く米國一ヶ國を唯一の顧客として彼の景氣と需要の消長に因て投機的に變動した絲價の如きも最近に於ける統制法の精神に基き、農村に於ける生産費を基礎として絲價の安定を圖り、無盡蔵に之を海外に供給することゝならば桑園の復活は勿論、蠶絲類は如何に之を増産するも尙足らざるの狀況を呈す可きは明らかなる所である。

茲くは官民偕に本邦蠶絲業の特異的重要性を十二分に認識し愈々隱忍自重し益々統後の守りを堅うして大東亞新秩序の完遂に邁進すべきである。

御 挨拶

拜啓 時下益御清祥の段奉賀上候
陳者小生杭州在勤中は一方ならざる
御懇情を蒙り奉深謝候
今般社命により無錫支店長を被命候
に就ては今後さも不相變御指導を御
鞭撻を賜り度奉懇願候
先は以紙上御挨拶申上度如斯御座候
敬 具
昭和十六年十二月
華中蠶絲株式會社無錫支店
久保田 昌 人
住所 中支無錫

謹賀新年

元 旦

奉天市大和區加茂町
第二號三井ビル内
滿洲龍麻蠶株式會社
依 田 信 一
菅 原 勇 治
西 田 正

御 挨拶

小生には喪中の正月に候へ共決戦下
榮光に映ゆる皆様の新正の彌榮を祈
上奉候
昭和十六年十二月
三重縣津市藤方
中曾根 長 男

第廿九回

卒業證書授與式

戰時體制下國策に即應する爲、實業關係學校の學生、生徒は三箇月繰上げ卒業となり、母校に於て之に基いて十二月二十六日午前十時より母校講堂に於て第二十九回卒業證書授與式が來賓並に父兄多數の臨席を得て舉行された。

式は宮城遙拜、英靈に感謝、皇軍武運長久祈願默禱に始まり、各科卒業生、修業生氏名を呼名し各科總代(養蠶科大久保孝一君、製絲科鈴木敏夫君、絹紡織科小川弘之君)に夫々校長より卒業證書を授與、更に實業教育振興中央會(會長文部大臣橋田邦彦)表彰狀を全卒業生中最優秀者島田清君(蠶卒)に又本會より針線賞を各科優秀等生中島英男(蠶卒)岩佐隆次(絲卒)小川弘之(紡卒)の三君に授與され、後、校長式辭として有益な饒りの辭があり、次いで文部大臣祝辭、來賓より淺井上田市長實業代表笠原善吉氏、中等學校代表甲田上田中學校長、千曲會代表永田平氏等の祝辭があり、引續き祝電祝辭披露、在校生總代小泉正衛君(紡二)の送辭に對して卒業生總代鈴木敏夫君の答辭があり、最後に校歌を合唱して此の意義ある式典を閉じた。

井上校長式辭

本日茲に我學校第二十九回卒業證書授與式舉行スルニ當り文部大臣閣下ヨリ祝辭ヲ賜ハリ且ツ朝野貴賓各位ノ賓臨ヲ辱ウシタルハ洵ニ本校ノ光榮トスル所ニシテ感謝ニ耐エザル所ナリ

養蠶科 二九名
製絲科 三一名
絹紡織科 三一名

選 計 科 九六名

デアツテ諸子ハ入學以來能ク校規ヲ守リ校訓ニ遵ヒ精勵努力シタル結果今日ノ榮冠ヲ得ルニ到レルモノニシテ我等職員一同洵ニ欣幸トスル所ナリ
父兄各位ニ於カレテハ多年丹精ヲ盡シ特望セラレタ子弟ノ今日ノ成業ヲ如何バカリ御喜ビ又御安心ノコトカト御察シ致シ衷心ヨリ御祝ヲ申上グル次第ナリ
諸子ハ本日學窓ヲ出テ實社會ヘノ首途ニ當リテ入學以來今日ニ到ル迄ノ榮華ノ勞苦ヲ回想シ今日ノ榮冠ヲ深ク喜ビトセラル、ナラン併シナガラ諸子ハ自ら反省シ諸子ノ今日アルハ備ヘニ聖代ノ惠澤ノ致ス所ナルニ想到シ聖恩ノ廣大無邊ナルニ感激シ報國ノ念ヲ一層深クシ國事ニ挺身シ同胞ノ儀表トラントスル覺悟ヲ固クスベキナリ諸子生レテ二十年諸子安今日ヲ成スニ到ル迄諸子ヲ育テ諸子ヲシテ今日ヲ學窓ニ學バシメタル爲メニ拂ハレタ父母ノ日夜ノ心勞ヲ省ミテ其ノ容易ナラザル鴻恩ニ對シ報恩感謝ノ念ヲ固メ十分ニ孝養ヲ盡サザルベカラズ。古人ノ所謂「身ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚グ以テ父母ヲ顯ハス」ト言フ孝ノ終リヲ完ウスルコトガ諸子ノ將來ノ務デナケレバナラヌ。

更ニ過去ノ學窓生活ニ於ケル鴻大ナル師ノ恩友人ノ誘掖、先輩ノ指導等數ヘ盡シ難キ幾多ノ恩惠ニ想ヒ到ラバ實ニ盡シ切れヌ感謝ヲ捧ゲナケレバナラヌ感情ノ切ナルモノアラヌ。
實ニ諸子ノ今日ノ光榮ハ諸子自ラノ辛苦ノ結果ニ止マラズ國恩ヲ始メトシテ此ノ如キ幾多ノ恩澤ノ致ス所デアアルコトヲ先づ以テ反省シ謙虛自戒シテ眞心ヲ以テ今後ニ盡スルノ心構ヘヲ致サザルハベカラズ。此ノ感恩、崇敬ノ誠ヲ以テコソ人ハ自ラノ私慾ヲ去リ公ニ奉シテ正シキ行ヒ大義ノ爲メニハ身命ヲ賭スルハ實ニ我ガ國民道德ノ大本タル忠孝タリ是ハ又我國ト共ニ永遠ナル我が忠孝ノ道ニ就イテ諸子實社會ヘノ首途ニ當リテ更ニ心構ヘヲ新ニスルコトヲ切望シテ止マズ。
今や我國内外ノ形勢ハ愈々緊迫シテ國歩益々困難ヲ加ヘントス。日支事變ハ勃發以來已ニ第五年ヲ迎ヘ陸海軍將士ノ奮力闘ニヨリ多大ノ戰果ヲ收メタルガ戰禍尙ホ止マズ時ニ稍熾戰場ヲ蔽ヒ劍光月ニ煌クコトアリ。更ニ十二月八日ハ我國包圍陣ヲ形成シテ經濟的壓迫ヲ加ヘ我興亞ノ大業ヲ遂行ニ隨害加ヘツ、アリシ米英ニ對シ宣戰布告ノ詔書 畏クモ煥發セラレ我國ハ自存自衛ヲ全クスル爲メニ敵國ヲ擊滅スベク斷乎トシテ起チ上リ開戦以來我が陸海軍將士ノ決死の進撃ニヨリ世界ヲ震撼スベキ大勝利ヲ博スルコトヲ得タルハ實ニ欣快ニ堪エザル所ナルガ世界ノ最大海軍及富ヲ以テ於ル敵國ヲ相手トスルニ於テ戰ハ長期ニ亘ルモノト思ハザルヲ得ズ是ヲ以テ我國ハ舉國一致シテ一層固ク銃後ヲ護リ萬難ヲ排シテ聖戰ノ目的貫徹ノ爲メニ奮勵努力シツ、アルナリ。

此ノ時ニ當リテ諸子ハ學業ヲ卒ヘテ活社會ニ出デントス。諸子ハ深ク此ノ情勢ヲ認識シ優渥ナル聖旨ヲ奉戴シ國家ノ鴻恩ヲ我が陸海軍將士ノ決死の奮闘ニ對シ深キ感謝ヲ捧ゲ國家ノ非常時局ニ於ケル卒業生トシテ特ニ奉公ノ誠ヲ致シ國策ニ沿ヒ各其ノ業務ニ奮勵努力セザルベカラズ。諸子ノ多クハ直ニ社會ノ實務ニ就クニアルモノニハ召サレテ兵役ニ服シ或ハ征戰ニ從フノ光榮ヲ擔フモノモ少クナシトセス。
諸子ハ何時ニテモ筆ヲ投ジ劍ヲ執ツテ勇躍國難ニ赴クノ覺悟ヲ固メテ居ルト信ス。一旦緩急アルハ是レ正ニ皇國男子ノ本懷ナリ。諸子ニシテ軍ニ從フモ或ハ日常ノ職務ニ就クモ常ニ此ノ覺悟ト此ノ決意トヲ持シテ眞ニ不撓不屈ノ努力ヲ致サザルベカラズ。
現下ノ緊迫セル時局ニ對處スル爲メニハ國家ハ人的資源ノ最高度活用ヲ要望スルヲ以テ是レニ應スル爲メニ本年ヨリ修業期間ガ短縮セラレ諸子ハ本日ヲ以テ卒業スルコトニナリタル次第ナリ。諸子ハ此ノ意義ヲ深ク心ニ刻ミ大ナル決心ヲ以テ國家ノ要望ニ添ヒ進ンデ此ノ難局ニ當リテ是レヲ克服スルノ覺悟ヲ持チ宜シク正道ニ立脚シ思想ヲ堅實ニシ禮節ヲ重シジ謙讓ノ徳ヲ守リ以テ人格ノ向上ニ努力セザルベカラズ。
將來指導の位置ニ立ツベキ諸子ニ於テハ高潔ナル人格ハ最も必要ナル所ニシテ諸子ハ本校ニ於テ修得シタル學術ハ國家經濟上最も重要ナルモノナリ。諸子ハ在學中修得シタル智識ヲ基礎トシテ益々研鑽ヲ重ね創作性ノ發揮ニ努メ、特ニ現下ノ如キ蠶絲業ノ轉換期ニ際シ更ニ羊毛其ノ他ノ窮乏纖維ニ代ハリテ實用纖維トシテ絹絲ガ立ツベキ時ニ當リテハ諸子ハ一層奮勵努力シ蠶絲業ノ各方面ニ涉リテ研究改善ヲ計リ國富ノ開發ニ資セザルベカラズ。之レ實ニ國家ガ諸子ヲ養成シタル鴻恩ニ酬ユル所以ナリ。
諸子ニハ各々其ノ長所、短所アリ、諸子ハ自ラ其ノ長所短所ヲ能ク省察シテ其ノ長ヲ伸バシ其ノ短ヲ矯ムルコトニ努メ他人ノ忠告ヲ能ク聞キ何事ヲ爲スニモ功ヲ急ギ或ハ焦慮スル如キコトアルベカラズ。諸子ハ能ク下積ミノ勞苦ニモ甘ンジ身ヲ挺シテ難局ニ當リ隱忍自重以テ其ノ職分ニ勵ミ切磋琢磨、勉メテ奮マシ以テ實力ヲ蓄ヘルコトガ將來ノ大ヲナス所以ナルヲ能ク銘記スベキナリ。
諸子ハ能ク此ノ心掛ヲ以テ自奮自勵氣宇ヲ闊大ニシテ職見ヲ高尚ニシ愈々德ニ進ミ業ヲ修メ品性器能ノ玉成ニ力ヲ効スベキナリ。
我學校ハ西ニハ北アルプス連山白雪嚧々トシテ華ニ諸子ニ高潔不動ノ精神ヲ教ヘ居リ、東ニハ千曲ノ清流滔々トシテ古休マシ諸子ニ不撓ノ活動ノ精神ヲ示シ居レリ。今や諸子ト別離ニ當リ諸子ハ能ク懷シキ母校ヲ圓ル大自ラノ教訓ヲ終生忘レズ母校ノ精神發揚ニ努力セラレテコトヲ望ミテ止マズ。
茲ニ諸子ガ社會ヘノ發程ニ當リ前途ヲ祝福シテ成功ヲ祈ル。
昭和十六年十二月二十六日
上田蠶絲專門學校校長從三位勳三等井上柳椿

1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 26

[illegible]

北信聯合演習に参加

十一月十九、二十日兩日に亘る御親臨拜受記念の北信中等學校聯合演習は秋色濃い鳥飼子岳裾高地和村から鹽田平にかけて勇壯に行はれたが、この演習に母校からも高木大佐以下一學年生約百二十名が參加、臨戦下學生の意氣を示した。

教
練
查
閱

進歩を見せ成績を示し殊に此の二年飛躍的
の年々好成績を有する母校教練の査問が十二月
十三日校庭に行はれた。一個即發の臨戦下で
あり執行官倉石忠一郎少將の査問振りは非常
に嚴格であつたが、周到精勵の高木大佐指導
の下に鍊へられた全生徒は良く勵む勢、好
評を博した。後報國新聞の査問もあつた。尚
了後の懇談に於て査問官は純粋の体操、銃劍
術の獎勵、運動場擴張等を希望された由。

第十九回 甘茶美裙展覽會

恒恆に於てアマチュア美術品の原価に年々追ふて盛になりつゝあつたが、昨年は種々の事情で休會、同好の士より殘念がられたので本年は報國團文化部に同移されて同部各班綜合事業として一層の隆盛を期することゝなり、職員生徒各種趣向のアマチュア多數追々準備された末、十一月廿三日から三十日迄、次の如く多數力作が出品された。

| 寫眞 | 繪畫 | 工藝 |
|-----|-----|----|
| 四九點 | 三八點 | 七點 |
| 書 | 四九點 | 繪畫 |

この中、職員側では寫眞に校長、小林敏、金井輝夫、金井正一、阿形一三、清水比呂夫の諸氏、繪畫に校長、石倉先生、小林、阿形

映畫班記

の情趣は文畫の恩恵で僅かに慰められてゐる。然るに文畫の依つて薄しいこの土地には「好映畫」の到來が淋しい。有様で遺憾の極みである。文藝部の映畫班ではこの點も研究してゐると思ふのであるが、二學期以来同班で推薦した映畫は九月下旬上田劇場上映の文藝部省推薦「闇印探訪記」(小林一茶)十月下旬同劇場上映の文藝部省推薦「小犬」映畫「最後の兵まで」同一「勝利の歴史」の四題である。

文化部修道班記事

等には修造班では古典研究、佛典研究、聖書研究
に修造班では古典研究、佛典研究、聖書研究
等は次の様である。

| | | |
|---------|-------|------|
| 十二月五日 | 聖書研究会 | 指導 |
| 十二月十日 | 古典研究会 | 行元教授 |
| 十二月十五日 | 古典研究会 | 行元教授 |
| 十二月二十日 | 古典研究会 | 行元教授 |
| 十二月二十五日 | 古典研究会 | 行元教授 |

講師 牧

十二月十二日 聖書研究會
「聖書」山上の垂訓 講義
講師 牧師 深町正勝氏

射撃大會に參加

十二月四日太郎山麓上田射撃場に行はれた北信中等學校射撃大會(二十一名が出席)に母校も參加した(本報の射撃部より)。母校は、母校射撃部が射撃大會に出席した。母校射撃部は、母校射撃部が射撃大會に出席した。母校射撃部は、母校射撃部が射撃大會に出席した。

耐えて慎重技を競つ

中五名は三十五點以上得點の表彰優良者に入つた。

職員常會

一開かつ集て重く老
 添回れるは、の體
 が開るこゝに、意社
 ことある外、義和
 になつて、其要も於
 になつて、の迫つて
 校務今固れる都當
 が出職充つる面、
 進常機議を於て、
 十會の果するあ、
 強い毎給ふ必つ情
 其月一、授要た通
 意第回無會上、

本會記事

本會日誌

十一月六日 第二回總會招集狀發送す
十一月十一日 第二回總會へ役員參與方の件

月十二日 監事會招集

十一月十四日 和田幸一氏逝去せらる弔詞を呈す

月二十三日 第二回終

十一月二十六日 正木章三氏逝去せらる取詞
を呈す

十一月二十八日 本會養護會額登記申請書提

せり

十二月十九日 新入會員歡迎會開催す
十二月二十四日 故吉川誠彦氏外七名の遺族
へ有志弔慰金贈呈す

月二十六日 母校卒業

十二月二十七日 伊藤清氏逝去せらる弔詞を呈す

千曲會新入會員歡迎會

情勢の要請に即して時ならぬ十二月に卒業の期を得た藤刺氣鋭の若人九十餘名を我千曲の會員として迎え得た事は實に喜びに堪えない所である。十二月十九日其歓迎會を開き、舊生理理事長の歓迎の挨拶の後、會則、會務、事業等に就いて夫々各理事から説明と之等に對する各自の協力を希望する言葉があり、猪坂直一氏からは處世訓を交へた祝辭があり、新會員は本會並に母校に對する最善の努力を期する所があつた。

支會役員改選

| | | | | | |
|---------------------|----------|-------|--|--|--|
| 十一月十六日北信千曲會總會開催役員左の | | | | | |
| 通致選決定セリ。 | | | | | |
| | 支會長 | 森本爲之助 | | | |
| | 副支會長 | 勝又藤夫 | | | |
| 同 | | 金崎眞英 | | | |
| 同 | 一 代議員 | 粟田悦實 | | | |
| 同 | | 稻井吉實 | | | |
| 同 | | 永原眞禪 | | | |

金貳圓也

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|--------|-----|------|-------|------|-------|-------|------|-------|
| 退官記念品 | | | | | | | | | | | | | | | (正月五日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金受領報告 | | | | | | | | | | | | | | | (現在) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 清水 | 中川 | 岡 | 吉澤 | 倉澤 | 芝野 | 酒井 | 尾藤 | 小林 | 平澤 | 好土 | 原 | 都丸 | 角田 | 中島 | 中村 | 岸 | 橋本 | 竹本 | 門平潤一郎 | 菊田 | 飯島 | 小宮山 | 河田 | 石井 | 關田 | 中澤 | 三輪 | 鈴木 | 松本 | 米田 | 枇杷木 | 清水 | 田中 | 太田 | 村田 |
| 衛敏 | 博司 | 卓郎 | 武夫 | 恒夫 | 三郎 | 米吉 | 省三 | 繁 | 勝 | 泰造 | 清志 | 晴治 | 貞三 | 收 | 文雄 | 壽命 | 勝彌 | 炳禧 | 博 | 恭一 | 正胤 | 太助 | 泰 | 清六 | 九平 | 二郎 | 貞德 | 玄九 | 嘉博 | 俊雄 | 瀧雄 | 英人 | 康雄 | 慎一郎 | 一由 |
| 今村 | 良郷 | 唐木田藤五郎 | 久保田昌人 | 窪田 禎作 | 三橋 宜夫 | 高木 三治 | 宮川 繁治 | 栗原 章 | 中島靜太郎 | 川船 卓爾 | 齋藤 舍 | 坂口 信一 | 野里 秀直 | 中村治三郎 | 佐藤 國一 | 松村 秀美 | 母袋 良平 | 齋藤 格次 | 竹内 虎夫 | 中島角太郎 | 宮堀 俊雄 | 仲内 靜 | 宮崎 弘 | 眞木 元 | 早乙女德藏 | 會田 誠司 | 久保田不二夫 | 關 熙 | 安川 寛 | 萩原 清治 | 西田 正 | 北島 正生 | 三瓶常四郎 | 金澤 勇 | 飯島 安治 |

金貳圓

[illegible]

累計金六

銃後資金應募者

(十二月五日現在)

| | | | |
|---|--------|-------|-------|
| 右合計金七拾壹圓也 | 金壹圓也 | 向井 政彌 | 伊藤 幸男 |
| 累計金六百參拾六圓也 | 岩根 謙 | 山崎 壽 | |
| | 佐藤 克治 | 樋村 忠義 | |
| | 小林 勳 | 田浦 準 | |
| | 窪田 潤 | 濱田 秀彌 | |
| | 新井 清平 | 入佐 一郎 | |
| | 川谷 壽一郎 | 町田 史郎 | |
| | 北村 義近 | 山岸 恒一 | |
| | 水口 米雄 | | |
| | 田澤 輝雄 | | |
| 銚後資金應募者 | | | |
| (頭書ニ1、トアルハ第一回醸出者 3、トアルハ第二回醸出者 2、トアルハ第三回醸出者) | | | |
| (十二月五日現在) | | | |
| 2 金貳拾圓也 | 中川 博司 | | |
| 3 金拾圓也 | 岡部 彌平 | | |
| 1 金拾圓也 | 清水 衛敏 | 萩原 正次 | |
| 2 金五圓也 | 村田 一由 | 竹本 炳聰 | |
| 1 金五圓也 | 吉澤 武夫 | | |
| | 中村治三郎 | 小口 鹿男 | |
| 2 金參圓也 | 沖 濤治 | 小口 宗久 | |
| 1 金參圓也 | 池の場 小六 | | |
| | 西田 正 | | |
| 3 金貳圓也 | 小宮山太助 | 宮原 秀人 | |
| 2 金貳圓也 | 山越 茂 | 飯島 正風 | |
| | 高木 三治 | 尾藤 省三 | |
| | 牧野 春雄 | 關田 九五 | |
| | 栗原 章 | 好士 泰浩 | |
| | 中島靜太郎 | 川船 卓彌 | |
| | 關 嘉四郎 | 松村 季善 | |
| | 井澤 喜三 | 母袋 良吉 | |
| | 絹村 貢 | 三浦 重雄 | |
| | 栗林 悅 | 安川 實 | |
| | 宮坂 三郎 | 北島 正生 | |
| | 都丸 晴治 | 鷹野 貞典 | |
| | 中島 茂 | 竹内 虎去 | |
| | 田ノ岡 實 | 篠澤 久 | |
| 1 金貳圓也 | 宮尾三右衛門 | | |

2 金壹圓也

1 金壹圓也

1 金五拾錢也
2 金五拾錢也

累計金壹千四百五拾八圓五拾錢也
 (二月五日現在)
 金拾圓也 2 飯森としゑ 2

扣圖也。

| | | | |
|------------|---------|---------|----|
| 1 金拾圓也 | 2 飯森としゑ | 2 山寺 | 孝 |
| 1 小宮山 | 1 順 | 1 佐藤 | 澄子 |
| 1 土屋 | 道子 | 1 宮崎 | 久恵 |
| 1 金子 | 葉子 | 1 小山 | 和子 |
| 1 柴田 | 繁子 | 1 赤岡 | 綾子 |
| 1 宮崎美恵子 | | 1 柳澤たけじ | |
| 1 金七圓八拾參錢也 | 田浦 | 準 | |
| 2 金五圓也 | 永田 | | |
| 1 金參圓也 | 田澤 | 輝雄 | |
| 1 金參圓也 | 橋本 | 武光 | |
| 1 金參圓也 | 渡邊 | 亙 | |
| | | 飯島 | 美徳 |
| | | 貞雄 | |

2 金貳圓也 伊藤 幸男 湯澤 重敬
上原 清夫 山崎 壽
1 金貳圓也 高須 兵司 鶴田 定平
由井 千幸 遠藤 正壽
鈴木 正悟 土生 珀二
佐藤 克治
1 金壹圓貳拾錢也 高橋よし江
2 金壹圓也 塚田 康男
1 金壹圓也 入佐 一郎 秋馬 彌平
右合計金六拾五圓參拾錢也
累計金壹千五百貳拾參圓五拾參錢也

會費領收 (五月五日現在)

入會金納入者
完納者 立木 一千(紡三) 島田 博(蠶五)
未納會費納入者
金四圓也 (昭和十五年度分)
宮澤 久雄(蠶五)
金八圓也 (昭和十四、十五年度分)
島田 博(蠶五)
金八圓也 (昭和十三、十四年度分)
濱井 成一(蠶三)
昭和十六年度會費金四圓也
宮澤 久雄(蠶五) 工藤 實司(蠶九)
立木 一千(紡三) 仲内 靜(蠶三)
平澤 勝(蠶三) 中山 泉(絲三)
傳田 靜夫(蠶三) 宮川千三郎(蠶三)
酒匂 景雄(蠶三) 矢野 進(蠶五)
齋藤 格次(蠶三)
昭和十七年度會費金四圓也
宮坂 三陽(絲三)
(昭和十七年一月五日現在)
入會金納入者
完納者 市村志貞(蠶二) 宮澤 卯(蠶九)
水野 義男(蠶三) 會田 誠司(蠶五)
長澤 得榮(蠶三) 今井 眞幸(蠶九)
酒井 淳夫(絲二) 下村忠一郎(絲二)

瀧澤 芳樹(絲九) 關 三四郎(絲九)
永田 俊三(絲三) 松野 輝彦(絲三)
中山 泉(絲三) 伊藤 一義(絲五)
若林 亨(絲五) 清水 英俊(絲五)
荒木 榮(絲五) 片山 巖(絲五)
小林 庄二(絲五) 阿部 信夫(絲五)
原 秀一(絲五) 高橋 公一(絲五)
岩佐 隆次(絲五) 中島 醇(絲五)
柳澤 六平(紡三) 佐藤 崇(紡三)
東 正雄(紡三) 一之瀬德治(紡三)
小川 弘之(紡三) 小川 利治(紡三)
宮下 力(紡三)
金拾貳圓也 長谷川政雄(蠶五)
金拾圓也 高橋重一郎(絲三)
金五圓也 北原 至(蠶三)
瀧澤 七朗(蠶五) 有川 博(蠶三)
今井 省吾(蠶五) 池田 逸郎(蠶三)
大坪 健一(蠶五) 米澤 保正(絲三)
小宮 貞三(絲三) 三宅 靜雄(絲三)
土屋 三男(絲三) 田中 和入(絲三)
井上 正人(絲三) 小林 剛(絲三)
佐多 直道(絲三) 川瀬 泰宏(絲三)
細井 政吉(紡四) 尾和 博行(紡三)
下世古廣志(紡三) 植田 實(紡三)
林 正信(紡三)
金壹圓也 武井仙太郎(蠶五)
未納會費納入者
金貳拾圓也 石井 清六(絲三)
金四圓也 (昭和十五年度會費)
枇杷木瀧雄(蠶五) 入佐 一郎(蠶三)
高橋重一郎(絲三) 伊藤 一義(絲五)
昭和十六年度會費金四圓也
三好 圭一(蠶八) 石原 石司(蠶八)
植村 忠義(蠶四) 大越 信(蠶四)
山本友之(蠶五) 佐藤 保雄(蠶五)
松本 一二(蠶五) 佐藤 克治(蠶五)
都築 清治(蠶五) 山岸 恒一(蠶三)
入佐 一郎(蠶三) 牧島 幸吾(蠶三)
小林 敏(蠶三) 伊藤 幸男(蠶三)
淺川 茂樹(蠶三) 森山 浦(蠶三)
川谷壽一郎(蠶三) 武井仙太郎(蠶五)

叙任辭令

現職員之部
上田蠶絲專門學校教授 野口新太郎
陸絨高等官五等(十一月一日) 倉澤 美徳
紋勳六等授瑞寶章(十一月十一日) 北村 俊一
任上田蠶絲專門學校書記(十一月廿九日)
上田蠶絲專門學校教授 齋藤 實
陸絨高等官五等(十二月一日)
卒業生之部
公立實業學校教諭兼舍監 弓田 弘
兼職ヲ免ス、福島縣立會津農林學校教諭ニ補ス(七月三十一日)
公立實業學校校長 藤原 卓之
地方農林技師 坂田 榮雄
高等官三等特選 同
同 金兒 文夫
同 丸山 武夫
同 栗原 章
同 小林 茂雄
高等官四等特選 同
同 稻田 實
高等官五等特選 同
同 桑田 庄七
同 宮城 博

本校辭令

高等官六等特選(以上十一月一日) 都丸 晴治
同 岩根 周一
同 北澤 周一
同 萬石安太郎
八級停下賜 同
願ニ依リ本職ヲ免ス(十一月六日)
秋田縣農林技師 萩原 幸胤
陸軍曹長勳八等
地方農林技師ニ任ス、高等官七等特選
秋田縣農林技師ニ補ス(十一月二十日)
地方農林技師 萩原 幸胤
十級停下賜(十一月二十日) 矢澤茂登一
朝鮮總督府道技師
依願免本官(十二月八日)
生絲検査所技師 伊藤 勢龜
依願免本官(十二月十三日)
長野縣農林技師 野尻 白二
地方農林技師ニ任ス、高等官七等特選
香川縣農林技師ニ補ス、十一級停下賜
公立實業學校教諭 川島熊太郎
茨城縣立鹿島農學學校教諭ニ補ス、紋從七位(以上十二月十五日)
蠶絲試驗場技師 太田慎一郎
七級停下賜 同 尾藤 省三
九級停下賜 同
生絲検査所技師 宮入 誠一
五級停下賜 同 大塚 重藏
六級停下賜(以上十二月二十四日) 同
朝鮮公立實業學校校長兼教諭 伊藤善代
陸絨高等官五等(以上十二月二十七日)
本校辭令
願ニ依リ副手ヲ免ス(十一月十二日) 副手 佐藤 彌
願ニ依リ副手ヲ免ス(十二月八日) 副手 清水比呂夫
願ニ依リ副手ヲ免ス(十二月二十日) 副手 武井 和夫
願ニ依リ副手ヲ免ス(十二月二十三日) 副手 遠藤 恒久
願ニ依リ副手ヲ免ス(十二月二十日) 副手 山邊 十一

總
會
次
第

會は正午に於て一時休會として一同晝食、記念撮影、母校關係殉國英靈供養塔前に禮拜休憩して二時半に再會、四時には議事を終了して以後提案外の懇談的協議會をなし五時閉會、次いで香ヶ軒に於ける懇親會に移つた。

開會の辭（理事長）

臨戰體制下多忙の折にも拘らず各位には遠路御出席されて有難う御座います。

儲本會々員は二〇〇五名にして、内譯養蠶科八〇七名、製絲科七六二名、絹紡織科二八二名、準會員一五四名であります。

然し佛故されたもの昨年度一五名にして深く弔意を表する次第でありまして又今回の事變に召された數は二〇〇名を突破し、此の中

一九名を失つて居りまして何れ後刻英靈供養塔前にぬかづいて祈りたいと思ひます。

前回以後母校の發展模様に就いては會報により大體御承知の筈でありまして、本會に關聯するもの一、二を擧げて見ますと

一、母校では新設纖維化學科の爲め新しき先生又三月末日退官された遠藤先生の後任の先生を迎えましたので之等の先生を後刻賛助會員に推薦して頂きたい。

二、昨年十一月より報國團報國隊が結成され學生教職員一休となつて活動して居り、林

昭和十五年度社團法人千曲會收支決算書

[illegible]

社團法人千曲會理事長 蒲生俊興

[illegible]

向從來、纖維綜合講演會が各地に順回的に行はれて居りまして、現今蠶絲の羊毛化が計られて居る折柄、來年度は蠶絲會が之を引受けることとなり、會長とも相談の上で當地に出で開催したと言はれ、本校でも大いに讃意を表した次第であります。之が開催の晩にも各位の御骨折を願ひたいと思ひます。

時期は何日か不明ですが春か又は秋かと想はれます。年一回でも斯うして各位と面談出來まことは誠に喜ばしいことで本日は充分御協議願ひ、今後共益々御健康にて本會の爲御盡力を願つて止みます。

會務報告(倉澤理事)

前回總會に於て決議になり理事者に委任されました案並に其他に就いて御報告申し上げます。

この件に就て學校當局と協議しようと思つて居ました處偲々校友會が報國團に改組され、内容が擴大されたにも拘らず時節報國費を捻さぬと言ふことになりましたので、此際、本案を出すは當を得ないと思ひ、控へまして明年團費を増額すると云ふ様な場合へでも再陳議したい。

(二)、會費の一時金納入方法改正に關する件
之に就いては理事者に其の研究を任されましたので、研究の結果案を得ましたが、結局定款變更になりますので、後刻定款中改正に關する件の協議の際御審議願ひたい。

(三)、統後會費募集に關する件
之に就いては先般第二回募集狀を各會員に出しまして事は各位の御承知の通りでありますして、着々釀金を願つて居ります。將來も努力致しますが、各支會に於ても一層の御助力を願ひたい。

(四) 社團法人設立功勞者表彰の件
この功勞者久保藤一氏は固く之を辭退され
て居りますので最近に於て何かに更えて其の
表彰をする積りで居る。

(五)、其の他の件に就いては大体會報にて御報告してありますので省略させて頂きたい。

第二回千曲會總會出席者氏名

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|---------------------|---------------------|---------------|----|-----------------|-----|--|------|------|------|------|------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| 神奈川支會 | 靜岡支會 | 東海支會 | 三重支會 | 岐阜支會 | 越佐支會 | 北陸支會 | 兵庫支會 | 山陽支會 | 北信支會 | 安岐支會 | 諏訪支會 | 龍川支會 | 在校會員 | 針塚長太郎 | 井上 柳樹 | 蒲生 俊興 | 松村季美 | 久保田正樹、須田圭二、林貞三、細川三郎 | 永田平、小宮山太助、野口新太郎、小松忠 | 一郎、山口定次郎、窪田潤。 | 監事 | 萬木三治、森本爲之助、笠原正巳 | 評議員 | 芝荒雄、岸勝彌、岡部彌平、森島三郎、石坂虎次郎、味澤泰造、猪坂直一、金崎眞英、勝又藤夫、小林良直、和田晋 | 宮城支會 | 福島支會 | 栃木支會 | 茨城支會 | 群馬支會 | 埼玉支會 | 東京支會 | 母袋 | 岩田 | 森田 | 稻石 | 白澤 | 小見 | 平澤 | 土屋茂一 | 森西 康允 | 栗林 悅 | 永井 眞吉 | 堀江 尚寬 | 安川 寛 | 永井 俊郎 | 白井 美明 | 峰村 眞一郎 | 關村 順一 | 宮坂 芳男 | 關村 尚一 | 小林 尚一 | 山崎 尚一 | 坂口 尚一 | 吉田 尚一 | 矢野 尚一 | 田中 尚一 | 信重 | 高島 章吾 | 小林 秀男 | 高島 章吾 | 市村忠貞 | 稻田 實 | 湯原 實 | 北澤 喜三 | 井澤 喜三 | 皆川 二壽 | 赤羽 是壽 | 新野元治郎 | 藤本 齊 | 町田 博 | 諸岡 政 | 濱岡 政 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|---------------------|---------------------|---------------|----|-----------------|-----|--|------|------|------|------|------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|

昭和十七年度社團法人千曲會收支豫算書

| | | | |
|------------|------------|-------|-------|
| 收 入 | 支 出 | 收 入 | 支 出 |
| 一金六千七百四拾圓也 | 一金六千七百四拾圓也 | 豫 算 高 | 豫 算 高 |
| 收 入 | 支 出 | 收 入 | 支 出 |
| 一金六千七百四拾圓也 | 一金六千七百四拾圓也 | 豫 算 高 | 豫 算 高 |

昭和十六年十一月二十三日

土國法人千曲會理事長 前 生 發 興

[illegible]

支會通信

栃木支會便り

秋深き十一月十六日宇都宮に於て千曲會栃木支會を開催、當日天氣晴朗午後一時縣下の同窓各氏十名が一堂に會し一年振りの顔は少いが西那須野の芳谷君は初めて他は皆顔なじみの間柄、篠原大先輩が見え青木、糟谷の古顔も參集先づ豫定の旭町の中村屋へ會するも當日折悪く公休日、市内に他に適所なし、糟谷氏の御宅へは御迷惑だが御厄介になる奥様御嬢様の御接待に恐縮し乍ら又格別の暖い水入らずの會合であつた。時局柄各職場に對する色々の話合ひも少くはなかつたが、本部よりの協議題たる校名變更の件に對する支會としての意見が討議されたが仲々重大問題とけに結論に達せず、不肖が代議員會に出席する爲一任された。其の間に糟谷さんの奥様の御手厚き御料理が次々に出され一同舌鼓を打ちつゝ四方山の話に盛んに花を咲かす、時節柄調達困難視された配給迄が卓上に運ばれる一同の顔色見る内に輝を増し一層お互の會談は白熱化する老年組はお嬢さんの齡とか嫁の心配又は令息の出世等人の親の情味を出し乍ら頼母しき落付を見せ、一方若手組は職外の事情等熱の溢れた情景を描出した。何んと云つても時流にお互は大きな緊張の色を見せて居る支會長柳澤忠次氏は目下〇〇に出動されて居るので慰問品及び會員一同の寄せ書を送る事にし武運長久を祈つた。

當日出席された會員は大先輩の篠原氏昭榮の原料課長で多難の役割を切り廻して居られる。御嬢さんも最早年頃の由頗る才媛適當な候補者は無きや。青木さん何時も齡より若く

見える若型併し長女は嫁がれ近い内に御孫さんが出來るとか、長男の人は陸士を此七月卒業され目下〇〇に御活躍とか頼母しき限り、糟谷さん學校方面の大先輩縣内では無くてはならぬ人近い内に校長先生に榮轉の山、猪瀬氏先程矢板から眞岡へ榮轉された泰任の先生口も八丁手も八丁短髮童顏校内切つてのやり手將來ある先生である。鹿沼農商の高橋さん貴公子然たる先生御子さんが會員隨一の子福者、御子息三人御嬢さん三人の國策型尙皆揃ひも揃つての優良兒談しき限り。昭榮の矢島君須坂在任當時筆者も同町蠶業學校に在職し居り時折會合親交を厚くしたものだ。今春小山へ榮轉し何時も變らぬ落付いた對度、少尉殿だがお召は未だ將來重役の素地は充分、宇都宮工業の羽吉君若手の代表所熟あり同校で博物の先生は少し専門外君の如き専門につけば天才の現れるや必然御多幸を祈る。西那須野の芳谷君小山町の産新進の土君の取締方面に居る事縣内只一人上田を代表して居るの感あり吾等同君の將來を大いに屬望して居る。

宇都宮市商業の勳使河原君天型的教育者變轉極り無き世界情勢に立處する商業戦士育成に君の人格と識見を以つてせば國家の要望する人士の排出は必然たり。本日小山檢定所新庄氏山保毛織の安井君足利輸出織物檢査所の柳澤信義君及び準會員諸姉が御都合で出席されなかつた事は少し淋しかつた。最後に筆者は栃木農學校に居る兒玉と云ふ男相變らず元氣だけが取り得。互の話は何時盡るも不解らる遠近へ本月中に歸任する各位の都合上午後七時頃糟谷氏宅の御厚意を満腔に喫し乍らお互に確りやらうぜと肩を叩きつゝ別れた。尙寄書に「中村屋に於て」とあるは最初の計畫通りに書いたもの最後に糟谷さんの奥さん御嬢さんに對して會員一同御厚意に深く感謝して擲筆する。

(一一、一七記)

| 基本財産 (昭和十五年度末現在) | | | |
|------------------|----------|---|-----------|
| 一、基本 | 項 | 目 | 金額 |
| 基本 | 前年度繰越 | 高 | 四六、九〇七、四八 |
| | 本期間收入 | 金 | 一、六五一、一六 |
| | 本年入会 | 金 | 一、五二一、〇〇 |
| | 内訳 | 金 | 九六六、〇〇 |
| | 右ニ對スル本期間 | 金 | 五五五、〇〇 |
| 海外留學資金 | 通常會計へ拂出 | 金 | 二一、五〇 |
| | 差引 | 金 | 一、二〇〇、〇〇 |
| | 現在 | 金 | 四八、九〇一、一四 |
| | 前年度繰越 | 高 | 一、〇三八、三九 |
| | 本期間收入 | 金 | 三六、五五 |
| 研究獎勵資金 | 本年入会 | 金 | 三二、五〇 |
| | 本年入会 | 金 | 六五〇、〇〇 |
| | 本年入会 | 金 | 四五七、四四 |
| | 本年入会 | 金 | 三〇四、〇四 |
| | 本年入会 | 金 | 一〇、七〇 |
| 四、針塚賞基金 | 本年入会 | 金 | 二〇、〇〇 |
| | 本年入会 | 金 | 三三四、七四 |
| | 本年入会 | 金 | 三〇四、〇四 |
| | 本年入会 | 金 | 一〇、七〇 |
| | 本年入会 | 金 | 二〇、〇〇 |
| 前年度繰越 | 高 | 金 | 六、一一二、七八 |
| | 本期間收入 | 金 | 二五二、〇〇 |
| | 本年入会 | 金 | 六、三六四、七八 |
| | 本年入会 | 金 | 五、〇五八、一〇 |
| | 本年入会 | 金 | 五、〇五八、一〇 |

計報

和田 幸一氏逝去

昭和十一年製絲科卒業、農林省蠶絲局産繭課勤務の和田幸一氏(絲三)が十月 日病死された事は何の通知もなかつた爲、漸く十一月に知つた。謹んで御冥福を祈る次第である。

正木 章三氏逝去

昭和四年製絲科卒業の正木章三氏(絲二)は住年病を得て、長らく七里ヶ濱風園に療養されて居たが其の効空しく十月二十日逝去さる。謹んで弔意を表する次第である。

伊藤 清氏逝去

大正七年製絲科卒業、有限責任長野縣生絲共同販賣施設組合に勤務中の伊藤清氏(絲五)は病を得て郷里茨城縣北相馬郡布川町に療養されしも其の効空しく十一月三十日遂に逝去さる。謹んで弔意を表する次第である。

弔慰金募集

故園田 信男氏 紡十八
故秋山 和氏 紡十七
故山田 幸一氏 紡十六
故正木 幸三氏 紡十五
故伊藤 清氏 紡十四
故藤田 幸三氏 紡十三
故右六氏 紡十二
故七氏 紡十一
故八氏 紡十
故九氏 紡九
故十氏 紡八
故十一氏 紡七
故十二氏 紡六
故十三氏 紡五
故十四氏 紡四
故十五氏 紡三
故十六氏 紡二
故十七氏 紡一

弔慰金報告

(十二月五日現在)

故柏倉豊吉氏弔慰金
金貳圓也 中曾根長男

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

故吉川誠彦氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

故足立光男氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

故加藤好男氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

故秋山幸男氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

故和田幸一氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

以下(一月五日現在)

故吉川誠彦氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

故加藤好男氏弔慰金
金貳圓也 河田 泰

右合計金貳圓也
金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

金貳圓也 河田 泰

有志弔慰金に對する
遺族よりの禮狀

奈良縣宇陀郡内牧村大字八瀨
故吉川誠彦氏 長男 吉川 孜
愛知縣海部郡津島町南門前町
故鈴木 進氏 父 鈴木仙三郎
山形縣東村山郡豊田村岡一番地
故柏倉豊吉氏 長男 柏倉 博
南安縣郡穂高町
故中島俊秋氏 父 中島 龜一
福島市太田町八
故渡邊雪雄氏 妻 渡邊喜美代
上田市新参町
故足立光男氏 父 足立 正吉
上田市袋町 長男 佐藤 洋晃
故佐藤 晃氏

正木章三君の想ひ出

山井 千幸
正木君と上田に於て學生生活を通じてのは、上田城址の公園が擴大され、市のグラウンドが設置され、學校では桑園の跡へ絹絲化學教室が造られた頃であるから凡そ十五年前になるであらう。信州飯田の生れ飯田中學から製絲科へ入られた、卒業後は横濱生絲検査所に就職し、其の後不幸病を得て病臥すること四年餘り、三十四歳を一期として晩秋の日靜かに此の世を捨て去つた。

○風光るまの秋の赤とんぼ切れ切れに人の想ひ出さるゝ
學生當時の正木君の作であるが追惜の情に堪えないものがある。正木君は品のよい体恰好をして居て勝れた直感力と觀察力を包蔵して折に觸れ片鱗を閃めかして居たのであるが短歌は固より、良い文章を草し、獨特な繪を畫き、唇を開いては一角の論客であつた。東京に三年間終始し、輕く杖を持ち乍らよく附近を散策しつゝ自然に對して觀察し豊富な情趣を養つて居た、學校ではすつと文藝部の委員として乏しい校友會豫算でやり繰りした

| | |
|---|---|
| <p>九大教授 理學博士 額 額 理 一 郎 著</p> <p>生 理 植 物 學</p> <p>増訂8版 B5判特製896頁挿畫365圖 價10圓・〒45</p> | <p>最新刊 地方農林技師 前 田 將 著</p> <p>柑 橘 ・ 枇 杷 定價2圓50錢 送料 21 錢</p> |
| <p>畜産試験場技師 農學博士 芝 田 清 吾 著</p> <p>畜 産 學 原 論</p> <p>増訂5版 A5判644頁 挿畫193圖 價7圓50錢・〒33</p> | <p>最新刊 兵庫縣農事試験場 大 澤 仲 三 著</p> <p>桃 ・ 柿 ・ 栗 附梅・李・胡桃 定價2圓50錢 送料 21 錢 ベカン</p> |
| <p>農林省農試技師 石山信一・向井秀夫共著</p> <p>植物病原細菌誌</p> <p>最新刊 B5判特製820頁 挿畫256圖 價15圓・〒45</p> | <p>最新刊 群馬縣勢多農林 久 田 精 之 助 著</p> <p>自釀要訣 醬油・味噌 定價8圓50錢 送料 21 錢</p> |
| <p>東京帝大教授 農學博士 丹 羽 鼎 三 著</p> <p>蔬菜栽培之技折</p> <p>最新刊 B6判 紙裝 82頁 價 35錢・〒 3 錢</p> | <p>最新刊 鹿兒島高農教授 玉 利 長 助 著</p> <p>造林業務提要 定價2圓50錢 送料 21 錢</p> |
| <p>東京帝大教授 農學博士 丹 羽 鼎 三 著</p> <p>實驗記錄 家庭廿坪菜園</p> <p>最新刊 B6判 紙裝131頁 價60錢・〒 6 錢</p> | <p>最新刊 地方農林技師 磯 谷 銳 著</p> <p>改訂蠶種製造實務要覽 定價2圓50錢 送料 16 錢</p> |
| | <p>増訂 7版・新裝版 千 島 喜 久 男 著</p> <p>畜 産 學 粹 改訂版 定價1圓80錢 送料 15 錢</p> |
| | <p>最新刊 農林省畜産試験場編</p> <p>畜産試験場年報 第 7 號 定價 98 錢 送料 1 錢</p> |
| <p>發 兌 東京市神田區錦町 一 丁 目 四 番 地 明 文 堂 振替東京13190番 (最近圖書目錄送呈) (送料三錢要す)</p> | |

り、其の頃は校友會雜誌を卒業生へも送付して居て其の編集や又獨創的な事業の企画等をして居た、文藝部主催の繪畫展覽會を附近の中小學校生徒の作品を募つて紡績科の製圖室を借り受けて開催したり、繪畫書を作つて校内運動會當日賣出して好評を博したり等は其の考案の實現であつた。辯論會に於ても常に新鮮な材題を求め、上田公會堂で地方青年辯論大會に於て(確か)時代精神と云ふ演題で熱演をした冬の夕もあつた。

正木君は明晰なる頭腦を有し、何をしてもきちんと体裁よく處理し吾々絲十六クラスでは特徴ある存在であつた。生絲検査所では調査部の事務を擔當し所内でも有視せられ、勤務の餘暇を得て詠作にも精進され、蠶絲業關係の雜誌に時々諸種の事柄を綴り發表して居るのが見られた、然し惜しむべし病に倒れ昭和十三年同所を退職するに至つた。當時旅行の序横濱に正木君の家を見舞つた、日常のよい部屋に只管奥様の心細やかなる看護を受けて居た。寢た儘で動けない枕元には、(一)餘り近寄らないでください(二)成るべく話しかけないでください(三)話は手短かに願ひますと云ふ自筆のペン書の紙片がヒンで止めてあつた。常に心中を整頓して置く正木君の面目が躍如として居り思はず眼に薄闇のかゝれる思ひがし深く胸打たるものを感じた。噫何ぞ舊情に歳月の隔たりがあらう。爾來病と闘ふこと幾星霜、クラス有志の暖かき友情も寄せられた。されど根強く喰ひ込んだ病魔は遂に彼正木君を立たしめず、若くして特徴ありし英才は大東亜共榮團建設の響きを開き乍ら榮光ある御代に別れを告げ菊の散る晩秋永遠に埋もれ去つた。永い病床生活に培はれた思想、高趣の進境を偲ぶと共に必ずや次の世に立派な健康體を持つて再び生れ還り天性の才能を思ふばかり伸展されん事を祈るものである。

編輯室より

△本會報第十二號は會員名簿號として發行したのであるが、會員の中には名簿號とは別に會報が發行されると思はれて「十二號が屆かぬ」と言はれる方があつた。今後は名簿は會報の特別號として出る譯であるから御承知置き願ひたい。

△十二月は卒業繰上げで何かと忙はしく、亦大東亜戦争の興奮裡に忽ち日は過ぎて會報も遅れて申譯なし。

△本號には本會總會記事及會計表があるが紙面の都合で少々省略したので、詳細知りたい方は本會宛御照會を。

原稿募集

資源難と經費高に依つて豫算の關係上餘儀なく過去三ヶ月間多數各位の不滿を浴びる程本誌数を縮少しておました。が之は前にも申上げて置きました様に一時的のもので、再び増頁致します。就きましては研究調査記事でも論説でも隨筆でも結構です。澤山御投稿を願ひます。

編輯室

昭和十七年一月廿二日印刷 (非賣品)
昭和十七年一月廿五日發行

發行所 上田蠶絲專門學校内
編輯人 小 松 忠 一 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎

發行所 上田蠶絲專門學校内
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎
印刷所 上田市原町五七九五 二 郎

電話 上田四〇六番・六六六番
振替口座 東京四三三三番
振替口座 長野六二四三番